参加した子どもたちの声⇒ ★流れ星を見たよ～★星はこんな形をしているんだ!★はじめて人工衛星を見た★木星の横縞を見た★星をこんなにしっかり見たのは初めて★四ツ葉のクローバーを見つけたよ★カブトムシを見つけた★服がビチョビチョになってとても気持ち悪かった★大変なこともがんばった★川登り山登りびっくりした★足を打って泣いたけど、応援をもらって元気になった★滝も岩もあって楽しかった★友達と仲良くなれたよ★初日は知らない人ばかりで嫌だったけど、たくさん慣れて友達もできた★線香に火をつけるのは毎日やってるけど、大きな木を焼くのは初めてだった★協力する大切さを知った★大変なこともがんばった★来年も行きたい★夕ご飯の春巻きがめっちゃおいしかった★ドリームチャレンジャー最高!★はじめてあった人とも仲良くなれた★寝るときに蚊にさされて大変だった★もっとたくさん泊まりたい

山口県PTA連合会広報誌

おやごころ

94号

発行年月日:平成20年11月15日発行　発行:山口県PTA連合会広報委員会

山口県PTA連合会
〒753-0072　山口市大手町2-18
山口県教育会館内
TEL:(083)925-6778
FAX:(083)925-3815
http://www.yamaguchipta.jp/
e-mail:info@yamaguchipta.jp

山口県児童総数 79,312人・生徒総数 40,353人
(平成20年10月1日現在)

ドリームチャレンジャー in 徳地

国立山口徳地青少年自然の家
2008.7.20~22

初めて出会う同世代の子どもたちが、共同生活の中で協調性を保ち、子どもたち自身で力を合わせることにより、ひとつのものを作り上げるという体験活動に県内の小学生60名が参加しました。自然観察や天体観測、びしょ濡れになった川のぼりチャレンジなど、滅多に出来ないような活動を通して、子どもたちは協力や感動といったかけがえの無い体験をすることができました。

知らなかった…では済ませられない。携帯電話の便利さの裏にある怖さをきちんと把握していますか?
子どもを事件や有害情報から守るのは、親の役目です。

子どもにケータイを持たせる親 必見!

子どもに指導していますか?
同じ携帯メールアドレスは3ケ月以上絶対に使わせてはいけません!
ご存知ですか?
着メロ、着歌など、無料でダウンロードできるものにはウイルスやペストに感染したり悪意のあるアプレットアプリが多いことを!

2008年度山口県PTA連合会総会(2008.6.5)
IT学習会の際の講演です

主題「知っていますか?子どものネットあそび」
～安全で安心なインターネット利用を考える～
副題「インターネットや携帯電話利用、保護者の無知が危険を招く」

講師
田島和彦氏
(財)民事法務協会　分室　技師
菅生中学校会計監査
川崎市PTA連絡協議会ホームページ運営顧問

田島先生のご好意により、講演の内容(約90分)をDVD化しました。

講演DVD

各学校に1枚お配りしていますので、学校・PTAへお問い合わせ下さい。

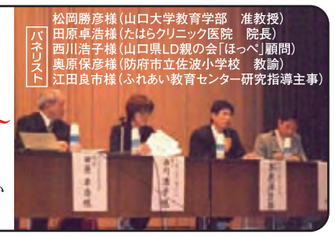
子育て親育て研修大会が行われました

とき:2008年10月21日　会場:山口県教育会館大ホール

テーマ
「一人ひとりを大切に!みんなちがってみんないい」
～発達障害のお子さんの支援についてそれぞれの立場から～

発達障害ってどんな障害なの?発達障害の子どもにはどうやって接したらいいの?
まだまだ理解されていない発達障害についての理解を深めるために、医療機関・関係機関・発達障害の子どもを持つ保護者のそれぞれの立場からの意見を聞き、特別支援教育についてみんなで考え、非常に有意義で貴重な研修会になりました。

パネリスト
松岡勝彦様(山口大学教育学部　准教授)
田原卓浩様(たはらクリニック医院　院長)
西川浩子様(山口県LD親の会「ほっぺ」顧問)
奥原保彦様(防府市立佐波小学校　教諭)
江田良市様(ふれあい教育センター研究指導主事)



山口県PTA広報紙コンクール 〆切せまる!!

応募方法

①山口県PTA連合会に加入するPTAは自由に応募することができる。
②応募する広報紙は、本年4月から12月末までに発行されたものを1部ずつ提出する。(表紙等は付けないこと)
③提出期限　平成20年12月末日
④提出先　「山口県PTA連合会」
〒753-0072
山口市大手町2-18　県教育会館内

◎応募作品については、審査委員会により次の審査基準に照らして行います。

【記事内容】
❶PTA活動の内容が良くわかるか
❷執筆、投稿、取材対象に多くの人が参加しているか
❸家庭や地域の問題、話題もバランスよく入っているか

【企画力】
❶年間を通じたテーマ、あるいは毎回柱となるテーマがあるか
❷特集、調査、座談会など興味を引く企画があるか
❸学校や教育、家庭、親子関係など考えさせる提案記事があるか
❹「私の一言」「コラム」など、読んでもらえる工夫があるか

【編集・レイアウト】
❶文章、記事の扱い(大きさ)、見出しが適切で理解しやすいか
❷写真、イラストなどを使いビジュアルな紙面になっているか
❸ハコ、たち切りなど配置し、読みやすくアクセントのある紙面になっているか
❹表紙を筆頭に美しく親しみやすい紙面になっているか

受賞おめでとう!!
第30回全国小・中学校PTA広報紙コンクール
日本PTA全国協議会会長賞
下関市立勝山中学校PTA

編集後記

心がさみしい大人のもとで
「豊かな心は」育たない。
あなたの心は大丈夫ですか・・・・。
昨夜の星の輝きを
あなたは覚えているでしょうか。

今年の県Pの行事に参加し、広報紙の編集に携わり、あらためて今、親の責任は重大だと痛感しました。広報紙をご覧になって、何かを感じていただければ幸いです。

広報委員長　瀧　優子

ご存知ですか! PTA活動中や見回り活動中の不慮の事故の保障制度

県P連では、PTAが主催もしくは共催する行事に参加していて不慮の事故に遭い、障害を被った保護者、教職員、児童生徒、保護者会員の同居の親族(兄弟・祖父母など)、ボランティア活動に参加される方(単位PTAに事前に登録されている方)に対して補償をしています。見守り巡回活動等にも対応できます。

●山口県PTA安全互助会の補償内容

	種類	見舞金額	日数及び要件
障害	通院	1日　2,000円	事故発生日から180日以内の90日間が限度
	入院	1日　3,000円	事故発生日から180日以内が限度
	手術	3万円～12万円	入院保険金日額に所定の手術の種類に応じて定めた倍率(10倍、20倍、40倍)を乗じた金額
	後遺障害	7.5万円～250万円	事故発生日から180日以内に後遺障害が生じた時その程度に応じて250万円の3%～100%
	死亡	2,500,000円	事故発生日から180日以内に死亡した時
	固定具使用	骨折等による固定具(ギプス等)を使用の場合、入・通院と重複しない日数を給付、通院保険金と同額(180日が限度)	
賠償	賠償(身体障害)	1回の事故につき損害賠償金1,000円を超過する場合には、その超過した額。ただし、被害者1名につき5,000万円、1回の事故につき3億円を支払い限度とする。	
	賠償(財物損壊)	1回の事故につき損害賠償金1,000円を超過する場合には、その超過した額。ただし、1回の事故かつ保険期間中について、1,000万円を支払い限度とする。	
	賠償(保管物)	1回の事故につき損害賠償金5,000円を超過する場合には、1名につきその超過した額。ただし、限度額を1名につき10万円、1年間の限度額を500万円とする。	

■問い合わせ先／〒753-0072山口市大手町2-18県教育会館内
山口県PTA安全互助会 TEL 083-925-6778 FAX 083-925-3815

●個人での保険加入は…
山口県PTA連合会
小学生・中学生総合保障制度で

学校週5日制に対応した、学校内外、土日全てを含む1年365日24時間補償。

❶個人賠償責任保障
…他人に傷害を与えた時
❷傷害保障
…ケガ・熱中症で入通院した時
❸携行品保障
…学用品などが破損した時
❹O-157保障
…感染症にかかった時
など、あらゆる場面で保障が可能!

■問い合わせ先／(制度引受会社)
AIU保険会社 山口県PTA小中学校総合保障制度統括本部
フリーダイヤル 0120-714-855

緊急座談会

2008.8.23　於：高松市

いま、山口県のPTAで語らなければならないこと

座談会出席者

瀧 優子（県P広報）

小山昌義（柳井市）

山田好男（山口市）

冨川芳人（萩市）

安藤明子（長門市）

伊藤伸之（県P広報）

尾崎厚視（岩国市）

石井今日子（県P広報）

後山慎一（宇部市）

テーマ1

いま一番大人が頭を痛めている、子どもと携帯電話の関係について。

瀧　最近子どもに携帯電話を持たせることの賛否が問われてますよね。

伊藤　うちは塾の帰り道等で何かの連絡のために持たせています。

冨川　チェーンメールとか、死ね死ねメールとか、それが原因で自殺者が出たり、おかしなサイトに登録して被害にあったり・・・恐ろしいですね。

安藤　学校やPTAでも講習会を開いたりして「携帯の恐ろしさ」を子ども達に伝えています。

後山　でも、今や私たちの手の届かないところで犯罪の魔の手はどんどん忍び寄ってきています。

山田　ただ、「携帯＝悪」と大人が勝手に決めつけてはいけないと思います。時代の変化とともに大人は完全な携帯社会です。これがないと仕事ができません。こんな便利なものを作っておいて、なんで子どもが使ってはいけないの？ということになります。
与えるときにはまず説明をする。親の説明が足りません。例えば包丁を初めて持たせる時、手に取って使い方を教えると思います。携帯も同じです。正しい使い方を伝えていくのは、親としての最低限の義務ですよね。

伊藤　大人も携帯について勉強しなくては・・・子どもの方がむしろ詳しいのではないでしょうか。

尾崎　それと、何の目的で持たせるのかをしっかり伝える。それが原因で人が傷ついたり、死んだりしてしまうということを伝えていかなければなりません。

小山　与えるからには大人も責任を持ちましょう。
最近、言葉では伝えることができない・・・携帯メールでしか会話出来ない子どもが増えています。

携帯よりおもしろいものを知らない子ども達

安藤　それは、子どもに限らず大人もそうでしょう。寂しい世の中ですね・・・。相手の顔を見て言葉を発することはコミュニケーションの原点のはずなのに・・・。

瀧　同感です。ところでみなさんは、子どもと言葉のコミュニケーションはきちんととれていますか？

石井　中学生ともなると口数がだんだん少なくなって、コミュニケーションがどんどんとりにくくなるばかりで、ため息が出ます。

冨川　でも親は無関心に過ごすのではなく、何しているの？どうなっているの？と突っ込んでいかなきゃいけない。時には子どもの中にどんどん立ち入る「勇気」が必要だと思います。嫌われようが会話を持とうとする事も勇気です。

石井　子育てって本当にエネルギーの要る作業ですよね。でも会話無くしてはお互いの気持ちは伝わらないですね。あきらめずにがんばりましょう。

安藤　それと親子の会話はもちろんですが、もっと社会全体が、あたたかい会話の飛び交う空間であってほしいなぁと思います。

伊藤　携帯電話のような機械を相手にするという事は、将来IT社会を担っていく上で、とても大切なことと思いますが、小さい時期から「機械漬け」になると、どんどん「こころ」が失われていくような気がします。

山田　今の子ども達は「携帯より面白いもの」を知らない・・・。たくさんの面白い経験を子ども達にさせていくことがとても重要だと思います。

全員　「面白いこと」に気づかせるには、大人の力が必要です！子ども達をもっともっと携帯とは違う世界へ・・・連れ出してやりたいですね！

テーマ2

子どもにいろいろな経験をさせるために大人がしなければならないこと

冨川　県PTA連合会では、今までは海外体験学習を事業として取り組んできましたが、少しでも多くの子ども達に「体験」の機会を！と、今夏ドリームチャレンジャーを実施しました。募集に対して予想外の反響でびっくりしました。

安藤　参加されたスタッフの方々、子ども達の様子はいかがでしたか？

冨川　自然の中で子ども達はいろいろな体験をしました。中でも、川のぼりはハードな体験だったようです。必死でがんばらないと流されていきますからね。自然の力のすごさ、迫力を感じたと思います。

伊藤　ドリームチャレンジャーの様子を写真で見せていただきましたが、本当に子ども達の顔が輝いているのがよくわかります。

瀧　普段仲の良い子と「なんでいっしょの班にしてくれんかったん！」と、ぶつぶつ言っていた子も、寝食を共にしながら行程が進むに連れて、初めて会った子ども同士、いつの間にか心は「仲間」になっていました。

山田　食卓のテーブルふきを班長がずっとやっていた班。「班長ばっかりじゃいけん！」「交代でやろうやぁ」と、子どもの中から声が上がってきました。
大人が指示するのではなく、子どもからというのが素晴らしいと思いました。

瀧　蚊もたくさんで、嫌がっていた子も、あまりの虫の多さに慣れっこに・・・。

山田　大人も楽しませてもらいました。食事の時間は大騒ぎ・・県下からの参加なので、いわゆるご当地自慢や、家での出来事・・それぞれの地域の歌も飛び出したりして。

大人の豊かな経験が感受性豊かな子どもをつくる

瀧　どんな場面でも子ども達の「生き生きとした姿」が印象に残りました。きっと子ども達にとって「新鮮で楽しい経験」だったのでしょうね。いや、苦しくとも大変なハードルを乗り越えることが「満足感」につながったからだと思います。

小山　それには、ひとりでは出来ない。仲間がいっしょだから乗り越えられた・・・たった三日間でとても大切な事をたくさん学んだと思います。

後山　日常を離れて豊かな経験が出来る場を子ども達に提供したということですね。日常ではその豊かな経験を得る事は難しいのでしょうか。

冨川　いや、いつもまわりにどんな環境があるかが問題です。その中でもいちばん大切な環境は「ひと」です。子どもを囲む大人の「こころ」です。例えば親に「あー星がきれい、花がきれい」といつも感じるこころがあれば、子どももきっとそんなふうに感じるこころ・・・感性ですよね。それが豊かに育っていくに違いありません。

尾崎　親がいろいろな経験を持っていれば、子どもにも絶対伝えていきたいと思うはず。例えば自然とたわむれる素晴らしさとか。大人が楽しいことを知っている・・・これが大切でしょうね。知らないと子どもにも伝わらないと思います。

伊藤　親の豊かな経験が子どもをつくるということですね。親も好奇心を持って、子どもと一緒にたくさんの経験を重ねていきましょう！

全員　よかったね！楽しかったね！という気持ちを共有することはきっと、親子の大切な一生の宝物になることでしょう、という事で全員が共感し、座談会は大いに盛り上がりました。

座談会を進めるうちに、あらためて今は、子育てのための経験不足な大人が多いと言う事が浮き彫りになりました。子どもは親を映す鏡という言葉が、まさに当てはまりますね。

《平成20年度活動方針》

行きたい学校・帰りたい家庭をめざして創り上げていくPTA活動

ごあいさつ

変化し続ける現代社会。中でも進化をし続けるネット社会に、自然に対応していく子どもたち。しかし私たち大人の多くは、その変化に戸惑いながら子育てをしています。その差こそが子育てを難しくしているのではないでしょうか。携帯電話による事件、学力テストの結果、他県での教員採用試験の不祥事など、親としての心配もつきません。
また、地球温暖化現象や頻発する大地震、多くの災害など次世代の子どもたちに残していかなければならない地球環境は悪化するばかりです。今こそ私たち子どもを持つ保護者として何が出来るか考え、行動する時期にきています。
本年度県内すべての保護者に、大切な情報を届けるべき役目としての山口県PTA連合会をめざしています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

山口県PTA連合会
会長　冨川芳人

第56回日本PTA全国研究大会
かがわ讃岐大会

UDONの国さぬき
こしとねばりのある子に育てよう

2008.8.23（土）24（日）

8/23〔分科会〕：香川県内10会場にて
8/24〔全体会〕：高松市総合体育館

全国の小学校・中学校・教育関係者約6,500人が参加しました。

山口県P連からは52名が参加

PTA全国大会・全体会記念講演レポート

「角界の新弟子における規範意識」

講師：内館牧子氏（脚本家）

内館牧子氏

横綱審議委員として有名な内館氏ですが、ご自身も東北大学の相撲部監督をされているということに驚きました。
角界には、「相撲教習所」というところがあり、新弟子は必ずここで挨拶の仕方や敬語、上下関係、感情の抑制といった【規範】（やらなければならないこと）を厳しく徹底的に教え込まれるそうです。ただし、日本語での教えを、日本に来たばかりの外国人力士がどれだけ理解しているかということも心配されていて、今角界は、外国人力士の不祥事が多いだけに、非常にタイムリーで興味深い講演内容でした。

三分一幸治（県P広報委員会）